

## 読者の声

■はじめまして。西里先生の記事に感銘を受け、何度も記事を読みました。

私は、30歳を過ぎた頃から少しずつ英語を本格的に学んでいます。一時は、短期留学や英会話スクールにも通いましたが、コストがかかるため、続きません。その後は、ずっと独り黙々と、何だかよくわからずにやってきました。TOEICや英検も持っていません。コストがかかるので。

そんな中、西里先生の記事を読み、自分の勉強の仕方がいかに間違っていたかということに気がつきました。今まで、ただ英語を聞いて、読んで、口ずさんで（音読）していただけで、別に英語を使う機会もなく、次の日になるとすっかり忘れてしまっていました。「やっぱり30歳過ぎたら新しい事を覚えるなんて無理なんだろうな」って思っていた今日このごろでした。そのうえ、つい数ヶ月前から、ネイティブの方と親しくする機会があり、とうとう私にも、英語を使わなければという時がやってきました。でも、ぜんぜんダメ。その方の前になると、全く英語が出てこないし、新しい単語もすぐに忘れてしまう。

そんな時に、先生の記事を読んだのです。今まで同じやり方がダメなら、違うやり方に変えてみる。これからは、先生の記事にあったような勉強の仕方、いや、英語へのふれあい方をしながら、「言葉の壁」を少しでも和らげる努力をしていきたいと思います。すてきな記事を読ませて頂き、ありがとうございました。(30代女性)

■55号の萩原俊彦先生の、「児童・青年のキャリア形成を促すキャリア教育」を読ませていただき

ました。その中で強調されていた、「キャリアの概念には『人の生き方全般』が含まれる」という言葉にとっても得心しました。現在、「女性は家庭」という伝統的な考えが問題として多く取り上げられています。女性のみならず、「男性は仕事」という伝統的な考えによっても多くの問題が生じているのではないかと思います。広義のキャリアの意味通り、女性も男性も、仕事や家庭、地域住民としての役割、余暇の過ごし方など生き方全般について、どのようにしたいのか考え、話し合える環境であることより健康な生き方ができるのではないかと、まさに仕事に家族に悩み始める年頃になり思いました。(20代女性)

■心理学ワールド60号の小特集「タブレットPCと心理学」を興味深く読ませて頂きました。短い期間で、一定以上の普及をみせたタブレットPCですが、心理学においても多くの試みがなされていることを知り、大変関心をもちました。タブレットPCによって、日常場面の障壁を低くすることができるという点に加え、研究実施の障壁も低くすることができるかもしれないというところに大きな可能性を感じます。現在は既存のメディア・デバイスに対して、新たなメディア・デバイスとしての有効性をみるということが大きいように感じます。しかし、タブレットPCがあることが当たり前になる世代は、今までの世代と比較して、

メディアやデバイスへの関わり方だけでなく知覚・認知処理そのものも変わるのではないかと興味が高まっています。(20代男性)

■60号の「日本人の幸福感和幸福度指標」「無意識と幸福感」の二本の記事を読みました。前者では、文化における幸福の特徴の違いを意識し、その文化にあった指標を作成しなければならないという問題点を述べていて、なるほどなあと感じました。今後の議論の成熟が楽しみです。後者では、無意識の領域にも焦点を当てるべきだという指摘を、とても重要なことだと感じました。無意識の働きについて、今後どう研究していけばよいのか、具体的にどのようなことが求められるのかを、私たちは改めて考える必要があるのだろうかと思いました。(20代女性)

■『心理学ワールド』はいつも面白く読ませていただいています。各記事内容はとても充実しているのですが、分量がコンパクトでかつ表現が平易なので、論文誌を読んで疲れた頭にちょうどよい知的刺激と視野の広がりを与えてくれます。また分野も様々ですが執筆者の先生方の日常の顔写真も掲載されているので身近に感じられ、さながら学会大会後の懇親会のような雰囲気の雑誌だと思っています。こういった趣向の雑誌は他学会ではなかなか見かけませんので、これからも『心理学ワールド』の充実と発展に期待しています。(30代男性)

## 読者の声 投稿募集中!

『心理学ワールド』への、ご意見・ご感想をお待ちしています。

●送付先 〒101-0051 千代田区神田神保町2-10  
(株)新曜社 第一編集部 morimitsu@shin-yo-sha.co.jp

投稿は、お葉書・Eメールどちらでもけっこうです。  
世代と性別をあわせてお知らせください。